41041
教科書文庫
4
760
44-1942
01304
49434

教科書文庫
4
760
44-1942
0130449434

昭和十七年四月三十日
實業學校音樂科
文部省檢定濟

小松耕輔著

實業音樂教本

男子用

參

広島大学図書
0130449434

中央図書館

広島大学図書
0130449434

教科書文庫
4
760
44-1942
0130449434

小松耕輔著

實業音樂教本

男子用

參

広島大学図書
0130449434

緒　言

一，本書は實業學校音樂科の新教授要目に準據して編纂したものである。

二，本書に集錄した樂曲は,著者署名以外のものは皆各國の作曲者によつて作られたものである。

三，歌詞に署名なきものは著者自身の作にかゝるものである。

四，歌曲は二十一篇を收めてゐるが,教授の都合上,幾分これを加除し,他の曲を採錄する場合を慮り,卷末に五線紙を添へて其の用に供した。

五，樂典は其の初歩を授け,音程練習は階梯的に編纂して卷末に添へた。

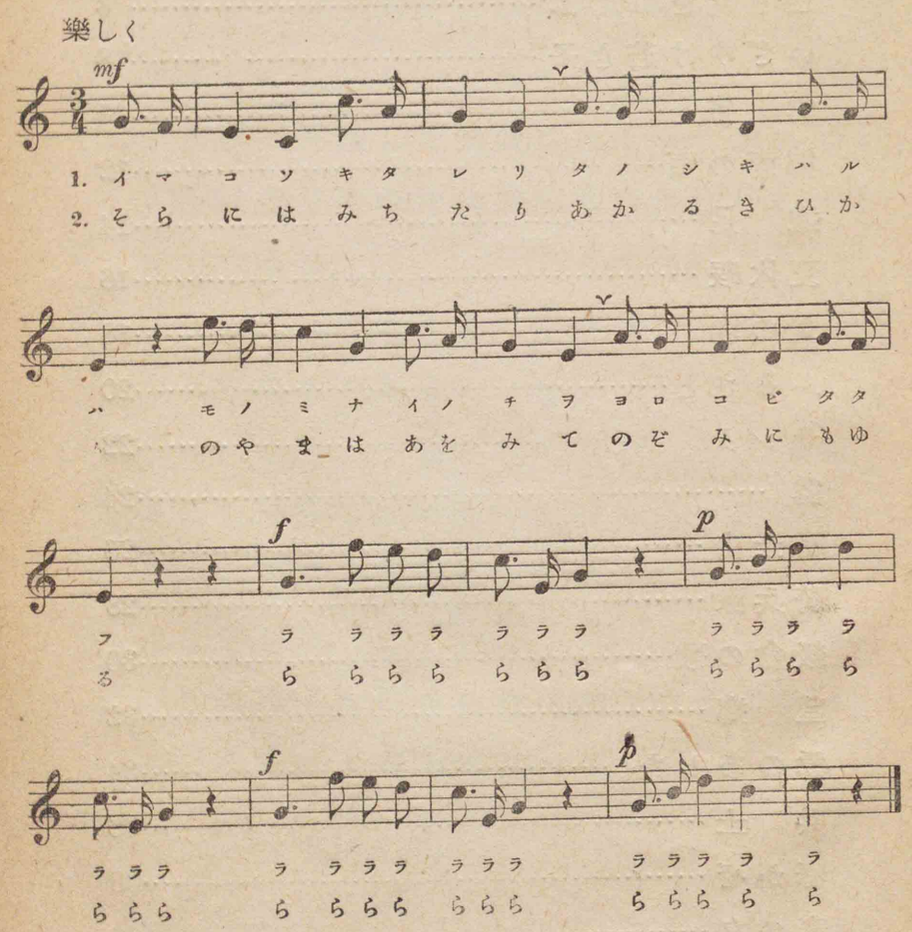
昭和十七年二月

著　者

目　次

春來る……4
亡き友をしのぶ……6
いざゆけ若き子……8
雲　雀……10
梅雨の頃……12
遠　足……14
夏休暇……16
夏の朝……18
ふるさと……20
サンタ　ルチア……22
露……24
富士山……26
騎兵隊……28
級會の歌……30
望　鄉……32
雪のあした……34
兵　士……36
春かぜ……38
春の夕……40
Home, Sweet Home.……42

春來る



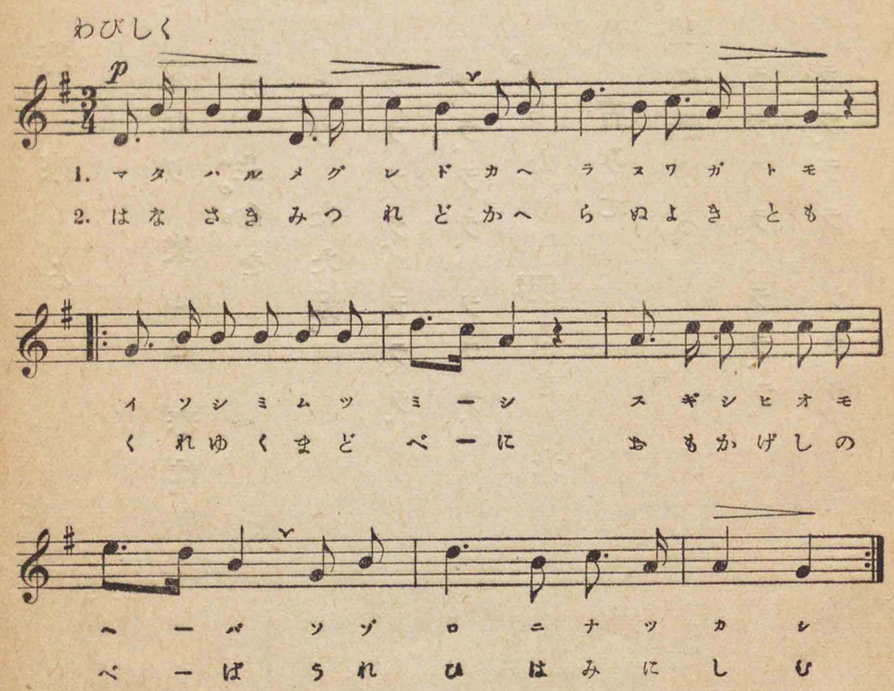
春來る

一 今こそ來れり樂しき春は。
ものみな生命を
よろこび たたふ。
ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、
ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、

二 空には滿ちたり明るき光。
野山は青みて
希望に燃ゆる。
ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、
ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、ラ、

麻上俊延

亡き友をしのぶ



亡き友をしのぶ

一

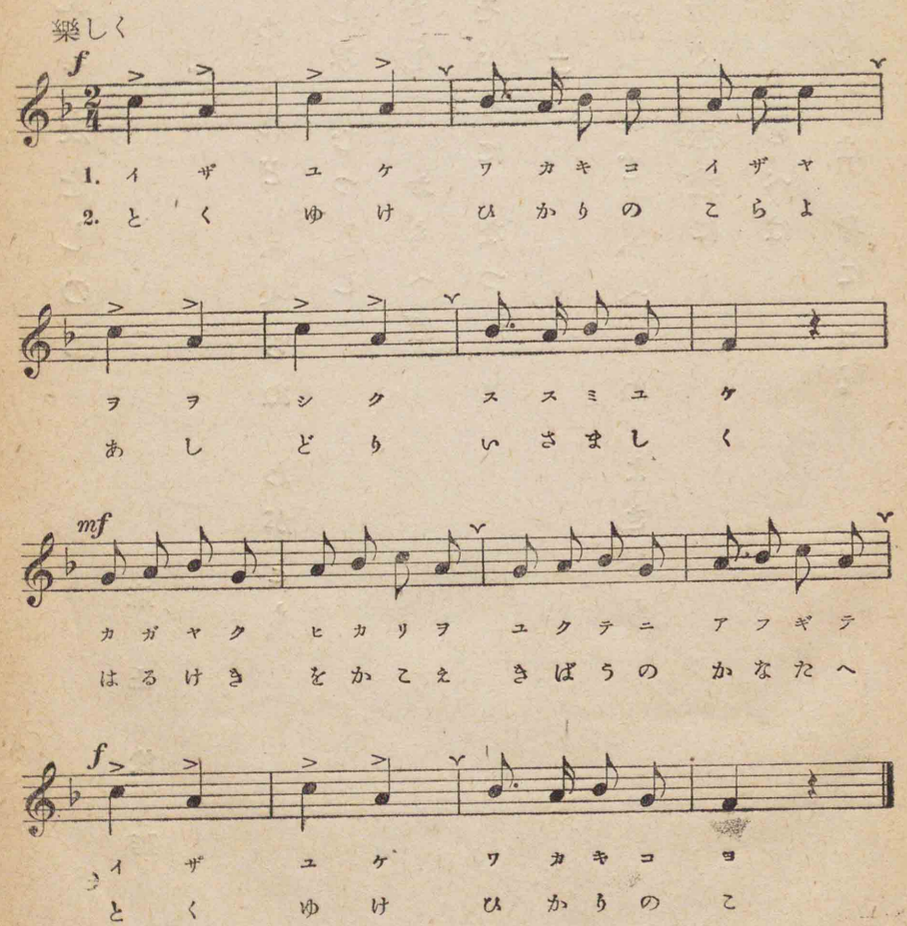
また春めぐれどかへらぬ　わがとも。
いそしみむつみし
すぎし日おもへば
そぞろになつかし。

二

花咲き滿つれどかへらぬよきとも。
暮れ行く窓邊に
面影しのべば
うれひは身にしむ。

麻上俊延

いざゆけ若き子



いざゆけ若き子

麻上俊延

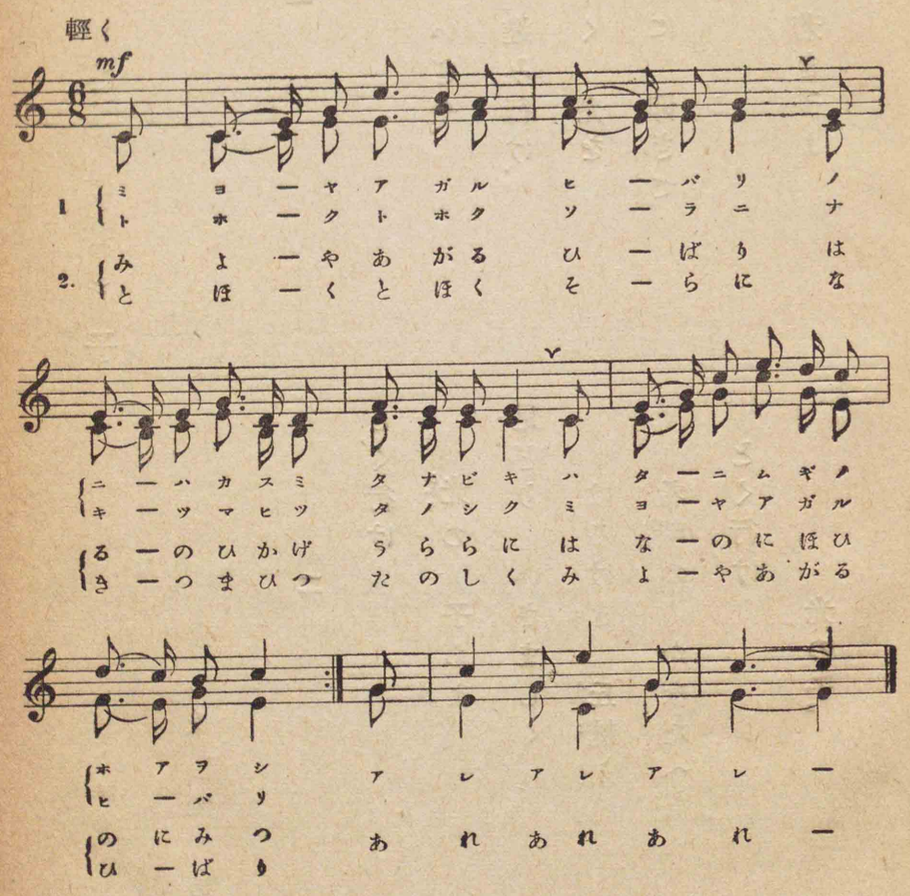
一

いざ行け
若き子　いざや、
ををしく　進み行け、
かゞやく　光を
行く手に　仰ぎて。
いざ行け
若き子よ。

二

とく行け
光の　子らよ、
足どり　いさましく、
はるけき　丘越え
希望の　かなたへ。
とく行け
光の子。

雲　雀



雲　雀

一

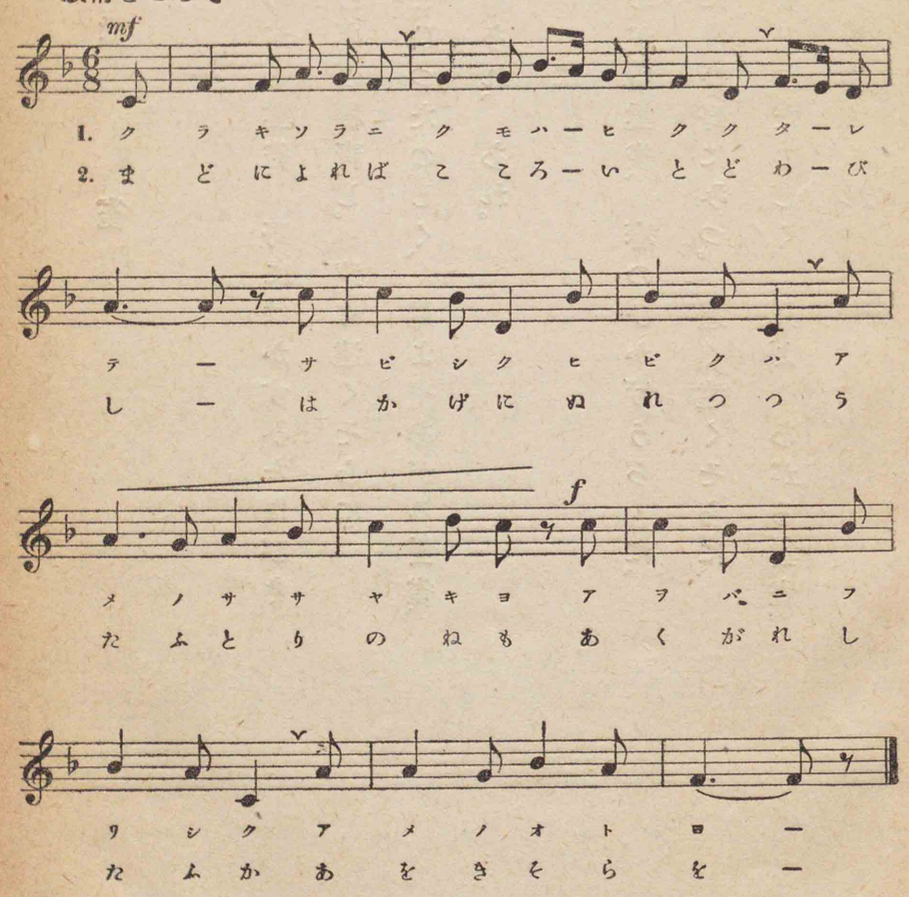
見よやあがる雲雀、野にはかすみたなびき。
畑にむぎの穂青し。遠く遠くそらに
啼きつまひつたのしく、見よやあがる雲雀、
あれ、あれ、あれ。

二

見よやあがる雲雀、春のひかげうらゝに、
花のにほひ野にみつ。遠く遠くそらに、
啼きつまひつたのしく、見よやあがる雲雀、
あれ、あれ、あれ。

梅雨の頃

感情をこめて



梅雨の頃

廣上俊延

一 暗き空に
雲は低く垂れて、
淋しく響くは雨のささやきよ、
青葉に降りしく雨の音よ。

二 窓に凭(よ)れば
こゝろいとど佗(わ)びし。
葉蔭に濡れつゝ歌ふ鳥の音(ね)も
あくがれ慕(した)ふか青き空を。

遠足

元氣よく

mf

1. カ ゼーソヨギ ソー ラーハレテ ヒ
2. か ぜーきよく そー らーすみて ひ

ハーウララ ミー モーカロシ イ ザヤユカン ハル
はーうらら みー もーかろし い ざやゆかん あき

ヲモトメテ ミ ソラタカク ナク ハヒバリカ キ
をもとめて を ちのそらに まふ はとんびか き

ケ キケ ソ ノーコーエ キ ケ キケ ソ
け きけ そ のーこーゑ き け きけ そ

ノーウータ ヨ ロコビニミチテコ テフモマヒイデハ
のーうーた ゆ たけきはみのりこ ばちもまひいでい

ナーハサキミツハ ルーノノベ
なーぞとびかふあ きーのノベ

遠足

葛原 鹵

一風そよぎ 空はれて、日は うらら、身も輕し、
いざや行かん、春をもとめて。

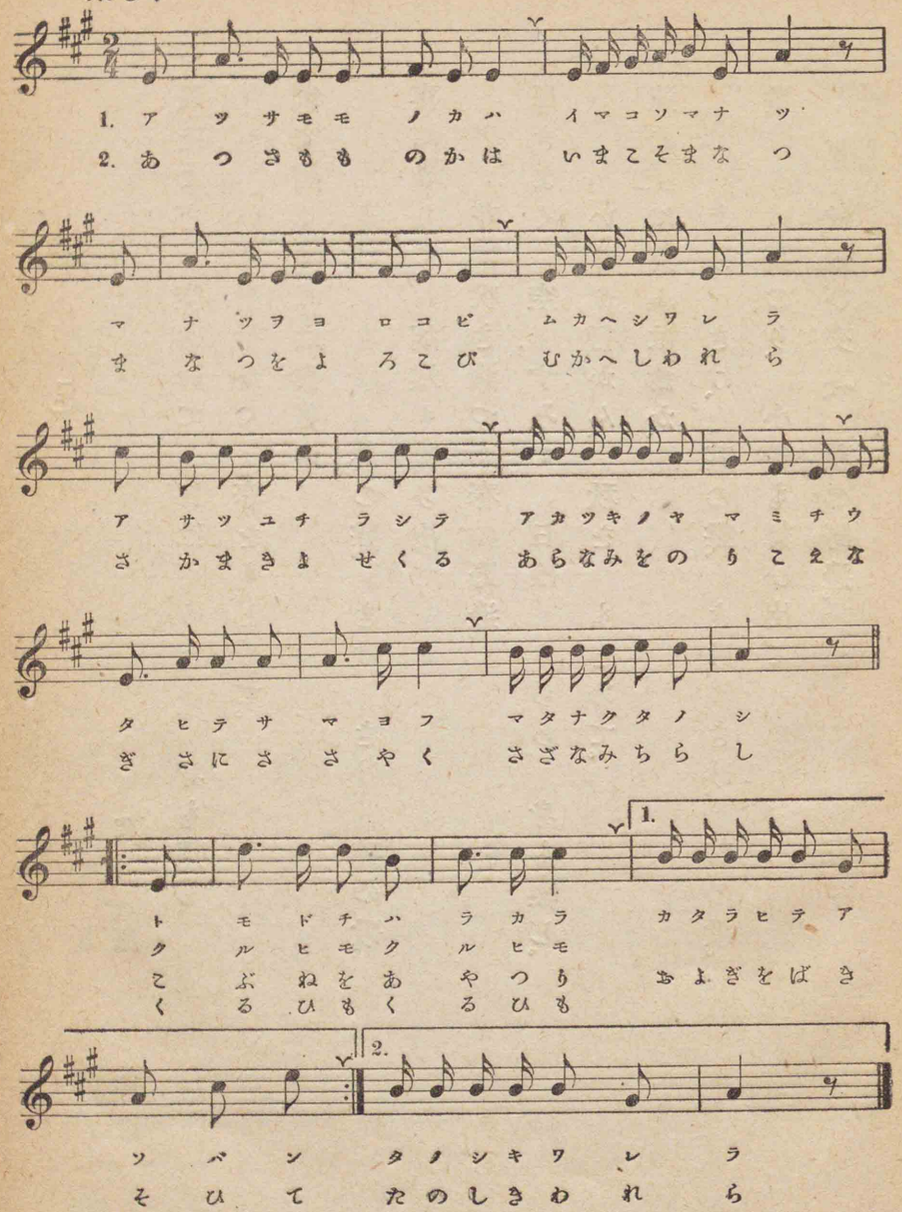
御空高く啼くは雲雀か
きけ、きけ、其の聲、きけ、きけ、其の歌。
喜に滿ちて、胡蝶も舞ひ出で
花は咲き滿つ、春の野邊。

二風きよく 空 すみて 日は うらら、身も輕し、
いざや行かん、秋を もとめて。

遠の空に舞ふは鳶か、
きけ、きけ、其の聲、きけ、きけ、其の歌。
豐けきは實のり、小蜂も舞ひ出で
蝗飛び交ふ、秋の野邊。

夏休暇

樂しく



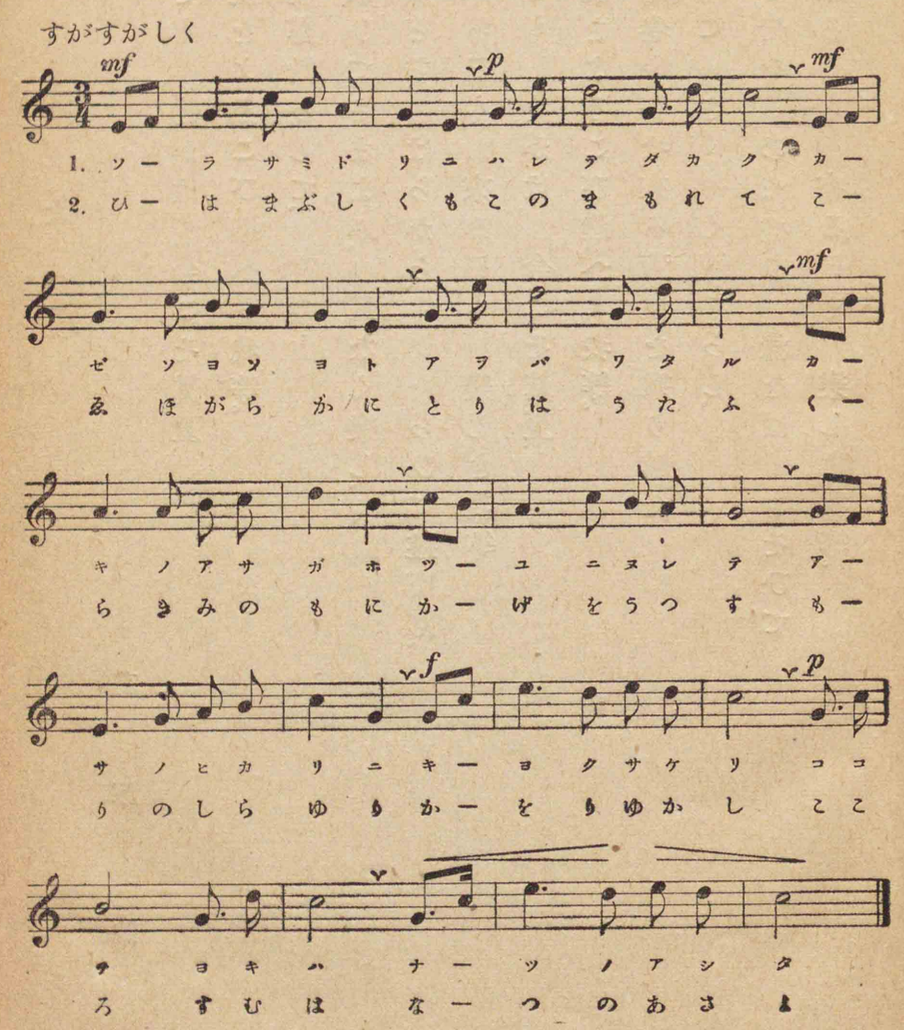
夏休暇

葛原 豁

一 暑さも 物かは 今こそ眞夏、
眞夏をよろこび迎へし我等。
朝露散らして、曉の山路、
歌ひてさまよふ、又なく樂し、
友どち、はらから、かたらひて遊ばん、
來る日も、來る日も 樂しき我等。

二 暑さも 物かは 今こそ眞夏、
眞夏をよろこび迎へし我等。
逆巻き寄せ來る荒波を乘り越え
渚に さゝやく漣ちらし、
小舟を あやつり 泳をば きそひて
來る日も 來る日も 樂しき我等。

夏の朝



夏の朝

麻上俊延

一

空さみどりに　晴れて　たかく
風　そよそよと　青葉　わたる。
籬の　朝顔　露に　濡れて、朝の　光に　清く　咲けり。
心地　よきは　夏の　晨朝。

二

陽は　まぶしくも　樹の間　洩れて、
聲　ほがらかに　鳥は　歌ふ。
暗き　水面に　影を　映す、森の　白百合　薫り　床し。
心　澄むは　夏の　朝よ。

ふるさと

感情をこめて

1. ナツカシノノベヨモリヨナツカ
2. なつかしのかはよみづよなつか

シノフルサトヨミチノベニヒラクヲ
しのふるさとよたそがれにながるる

グサアサツユニヒヲウツシホソキ
みづゆふばえのいろにそみしげり

ミチヲレテユケーバキリギシニエダハタ
たるいばらのしーたうをつりしふちもあ

レクダリユクサカノシタニケムリ
りかなたなるはしのうへをひとの

mf

タツトモノイヘナツカシノノベヨモ
かげとほりゆくなつかしのかはよみ

リヨナツカシノフルサトヨ
づよなつかしのふるさとよ

ふるさと

小松清

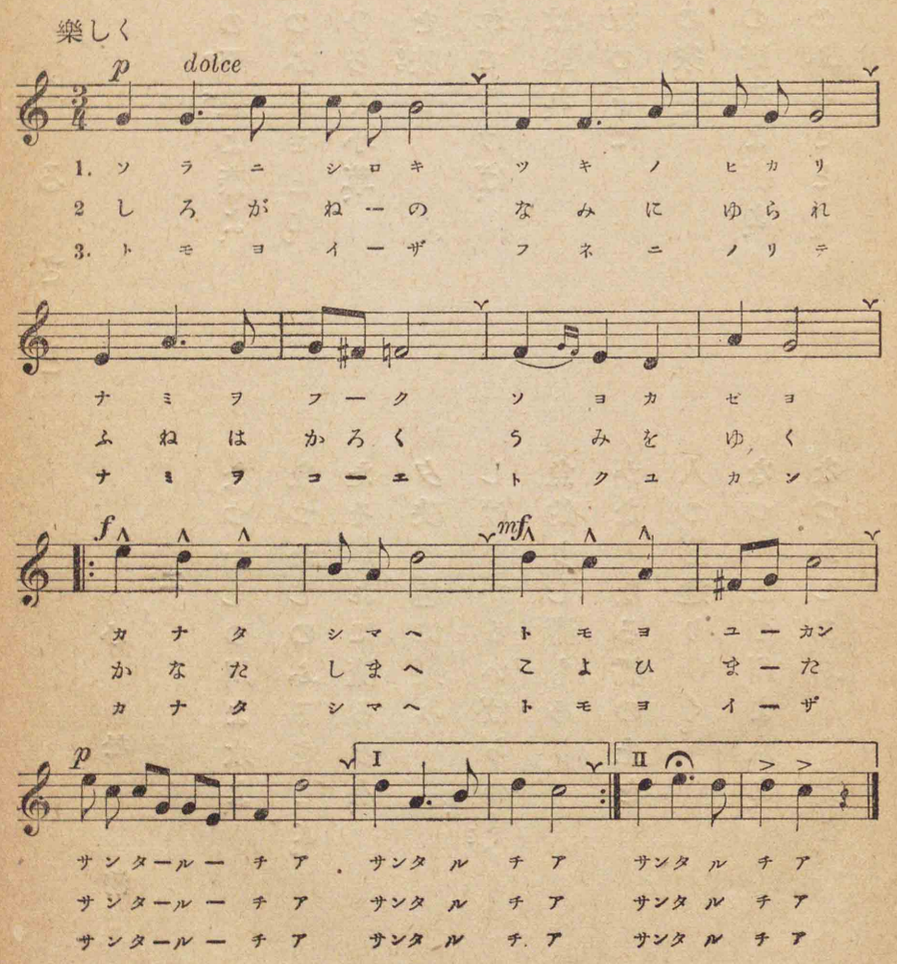
一

なつかしの野邊よ森よ、
なつかしのふるさとよ。
道の邊にひらく小草、
朝露に日を映し
細き道折れて行けば、
斷崖に枝は垂れ、
下りゆく坂の下に
煙立つ友の家。
なつかしの野邊よ森よ、
なつかしのふるさとよ。

二

なつかしの川よ水よ、
なつかしのふるさとよ。
たそがれに流るる水、
夕映の色に染み、
しげりたるいばらの下、
魚釣りし淵もあり。
かなたなる橋の上を
人の影通りゆく。
なつかしの川よ水よ、
なつかしのふるさとよ。

サンタ　ルチア



サンタ　ルチア

小松清

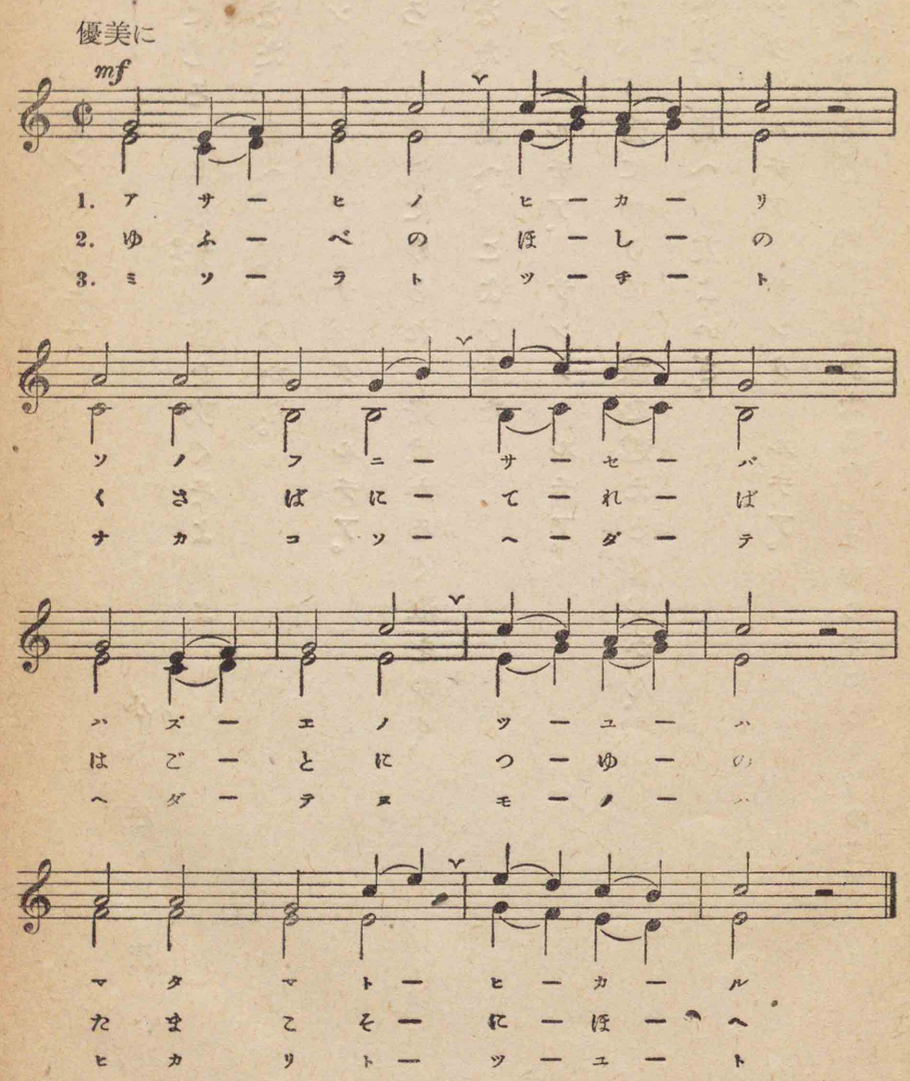
一　空にしろき月の光、波を吹くそよ風よ。
かなた、島へ、友よゆかん。
サンタ　ルチア、サンタ　ルチア。

二　しろがねの波にゆられ、舟はかろく海をゆく、
かなた、島へ、こよひまた。
サンタ　ルチア、サンタ　ルチア。

三　友よいざ舟にのりて、波を越えとくゆかん、
かなた、島へ、友よいざ。
サンタ　ルチア、サンタ　ルチア。

（註・サンタ　ルチアは伊太利ナポリ市の沖にある島の名）

露



露

一

朝日のひかりそのふにさせば、
葉末の露は眞玉とひかる。

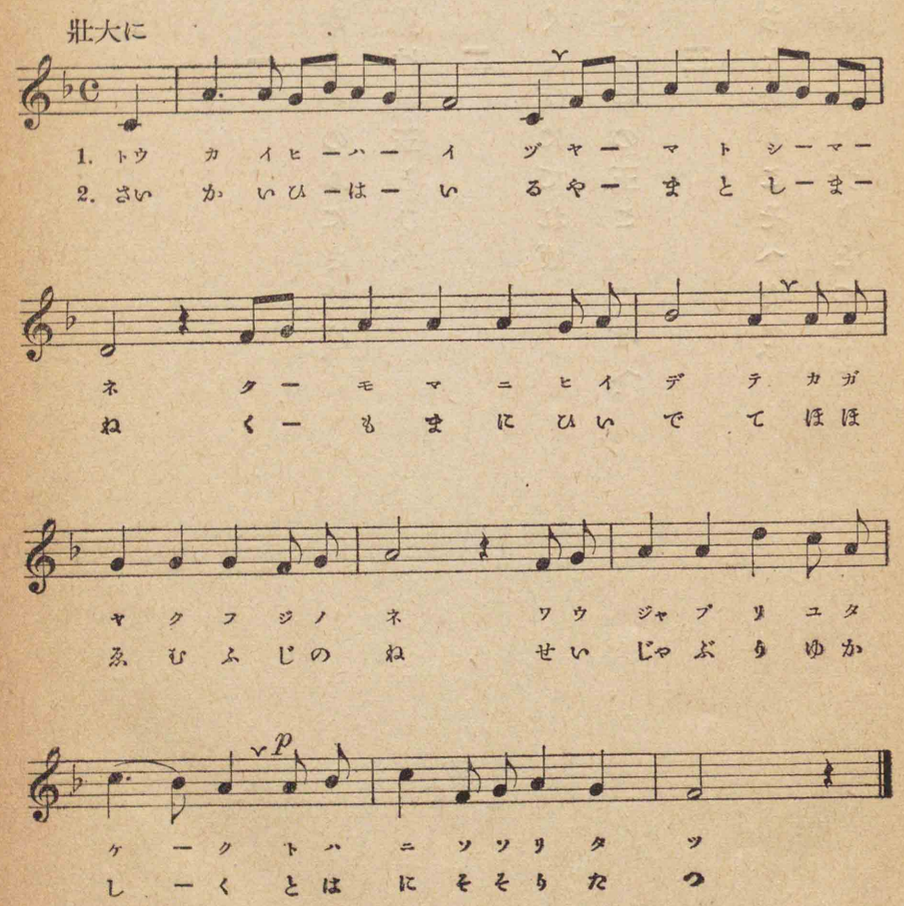
二

夕の星のくさばにてれば、
葉ごとにつゆの玉こそにほへ。

三

み空とつちとなかこそへだて、
へだてぬものは光りとつゆと。

富士山



富士山

葛原　豁

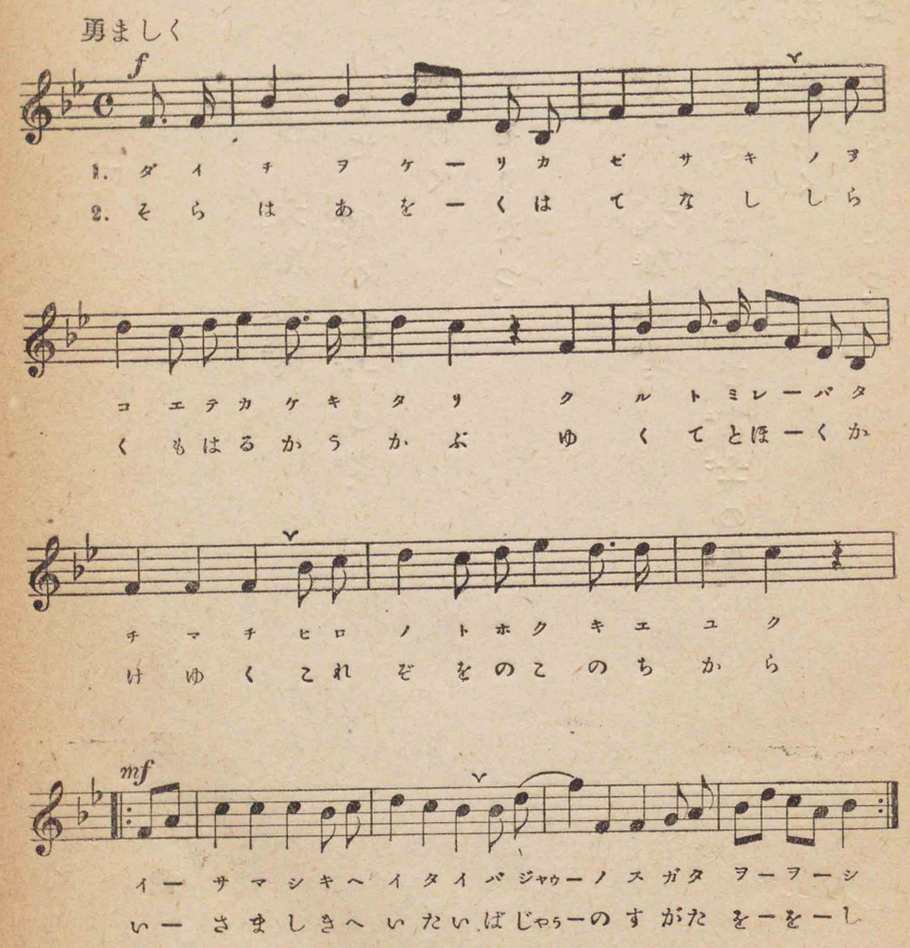
一

東海　日は出づ　大和島根、
雲間にひいでて　輝く富士の峯、
王者振　豐けく
永劫に　そそりたつ。

二

西海　日は入る　大和島根、
雲間にひいでて　ほほゑむ富士の峯、
聖者振　床しく
永劫に　そそりたつ。

騎兵隊



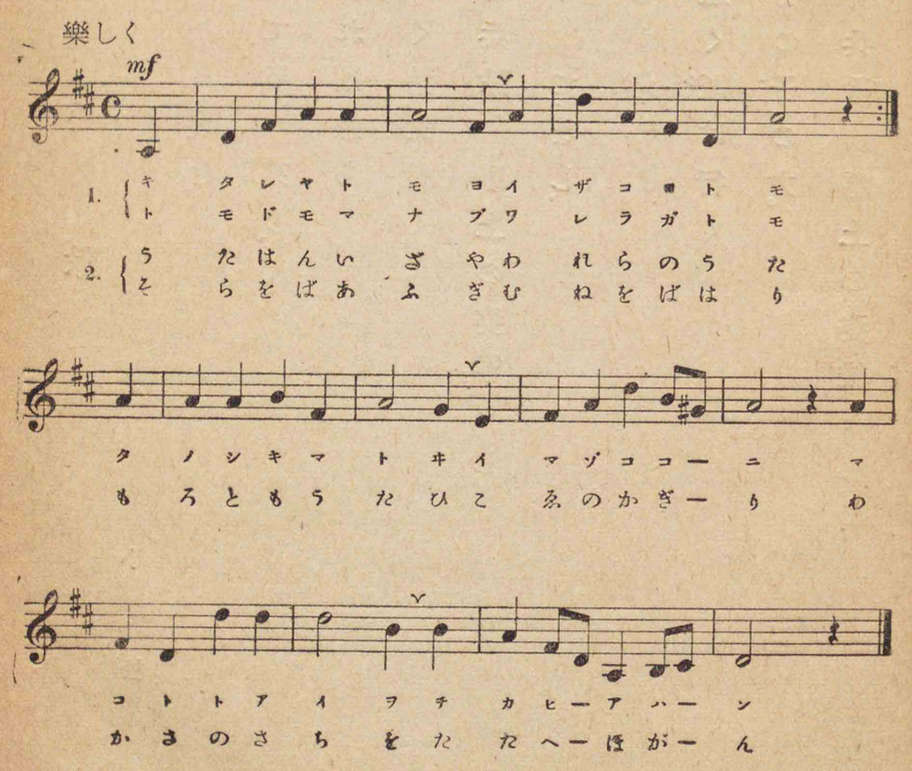
騎兵隊

一
大地を蹴り風裂き、
野を越えて駈け來り、
來ると見れば忽ち
廣野とほく消え行く。
勇まし騎兵隊、馬上の姿雄々し。

二
空は青くはてなし、
白雲はるか浮かぶ。
行く手遠く駈け行く、
これぞ男の子の力。
勇まし騎兵隊、馬上の姿雄々し。

小松清

級會の歌



級會の歌

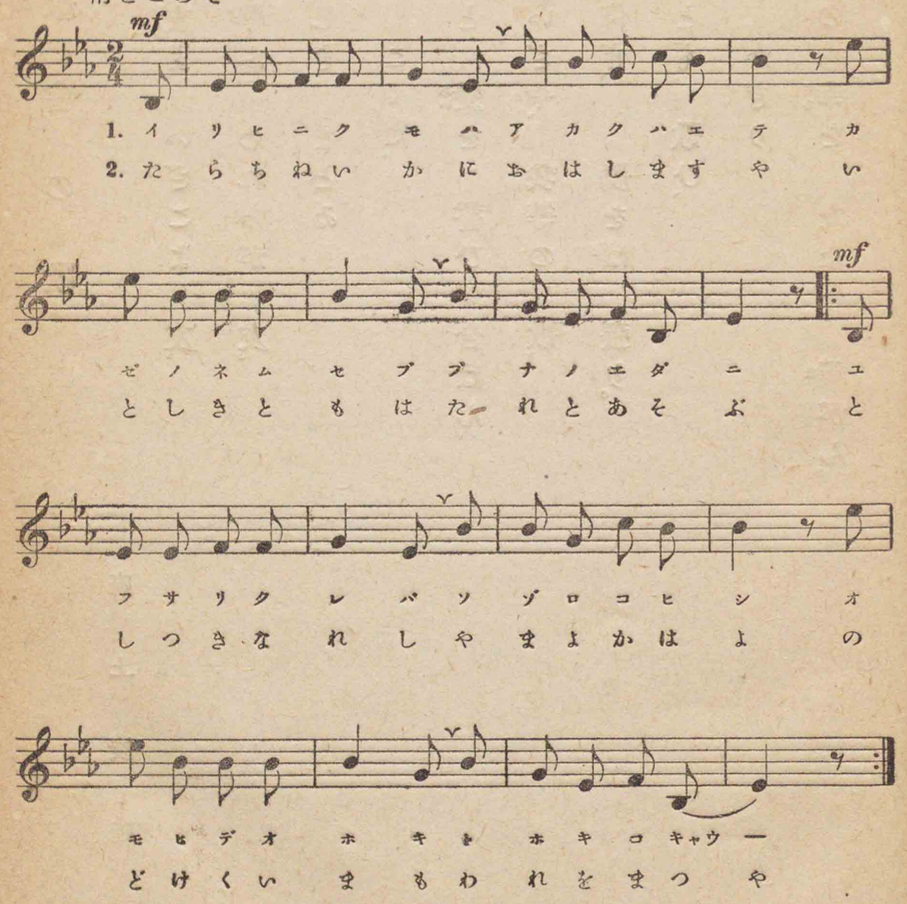
麻上俊延

一　來れや　友よ、いざこよ　友、
ともども學ぶ、われらが　友。
たのしき　まとゐ
今ぞ　こゝに、
眞實（まこと）と　愛（あい）を　誓ひ　合はん。

二　歌はん　いざや、我等の　歌、
空をば　仰ぎ、　胸をば　張り。
もろとも　歌ひ、
聲の　かぎり
若さの　幸（さち）を　たたへ　祝（ほ）がん。

望　郷

情をこめて



望郷

麻上俊延

一

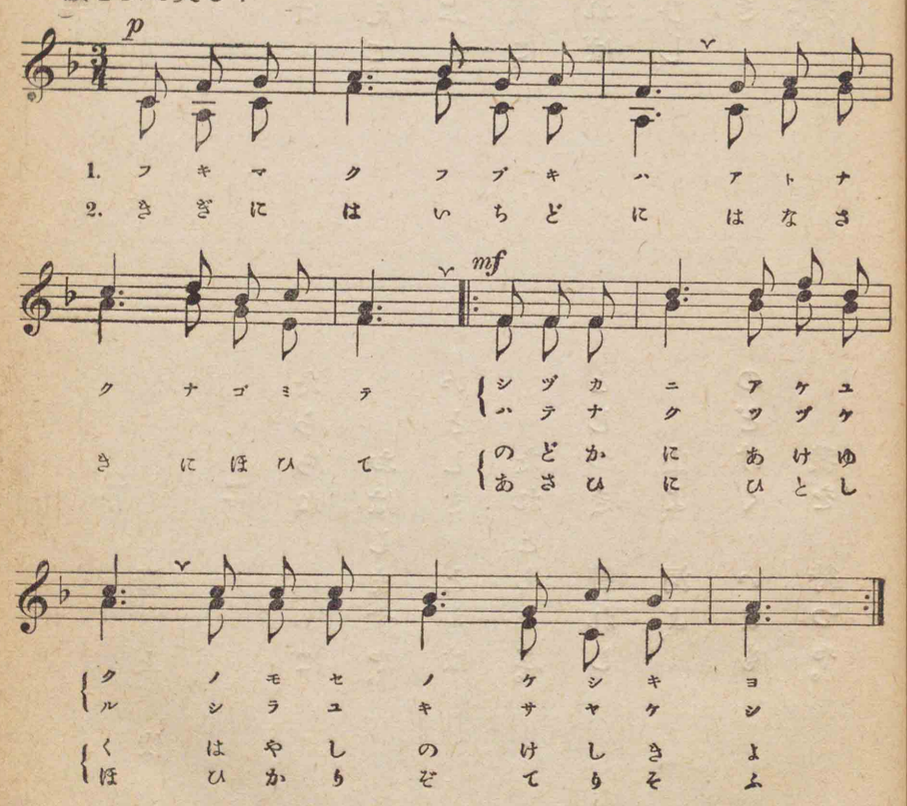
入り日に　雲は
赤く　映えて、
風の音　咽ぶ
山毛欅の枝に。
夕さり　くれば
そゞろ戀ひし、
想ひ出　多き
遠き　故郷。

二

たらちね　いかに
おはしますや、
いとしき　ともは
たれとあそぶ。
としつき　馴れし
山よ、河よ、
のどけく　いまも
我を　待つや。

雪のあした

感を以て美しく



雪のあした

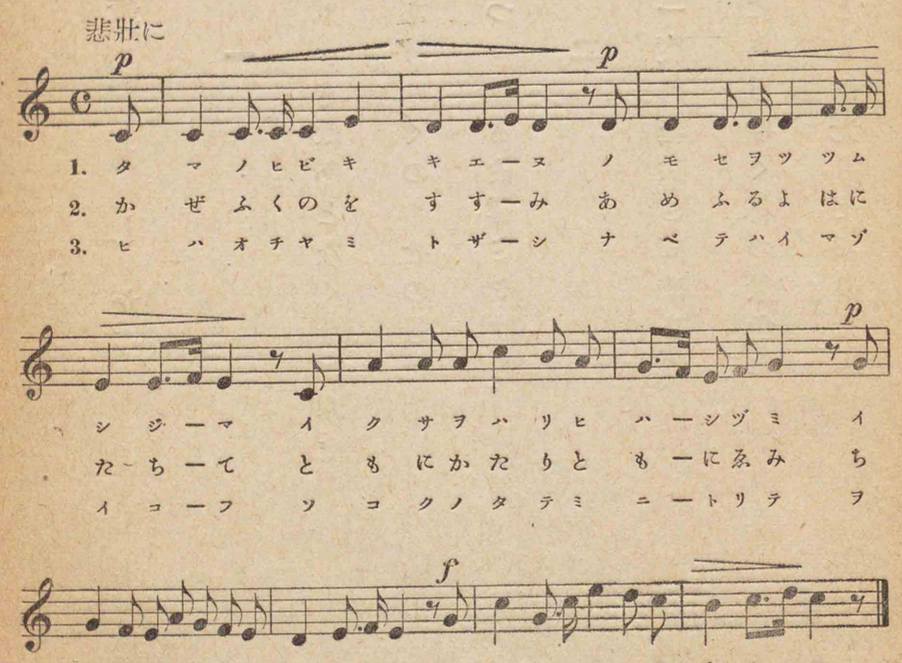
一

吹きまくふゞきはあとなくなごみて、
靜かにあけゆくのもせの景色よ、
はてなくつゞける白雪さやけし。

二

木々には一度に花咲きにほひて、
のどかにあけゆく林の景色よ、
朝日にひとしほ光りぞてりそふ。

兵　士



兵　士

小松清

一

たまのひゞき消えぬ、　野もせをつゝむしじま、
いくさ終り日は沈み、　いこふかたへに友はなし。
友はむなしくなりぬ。

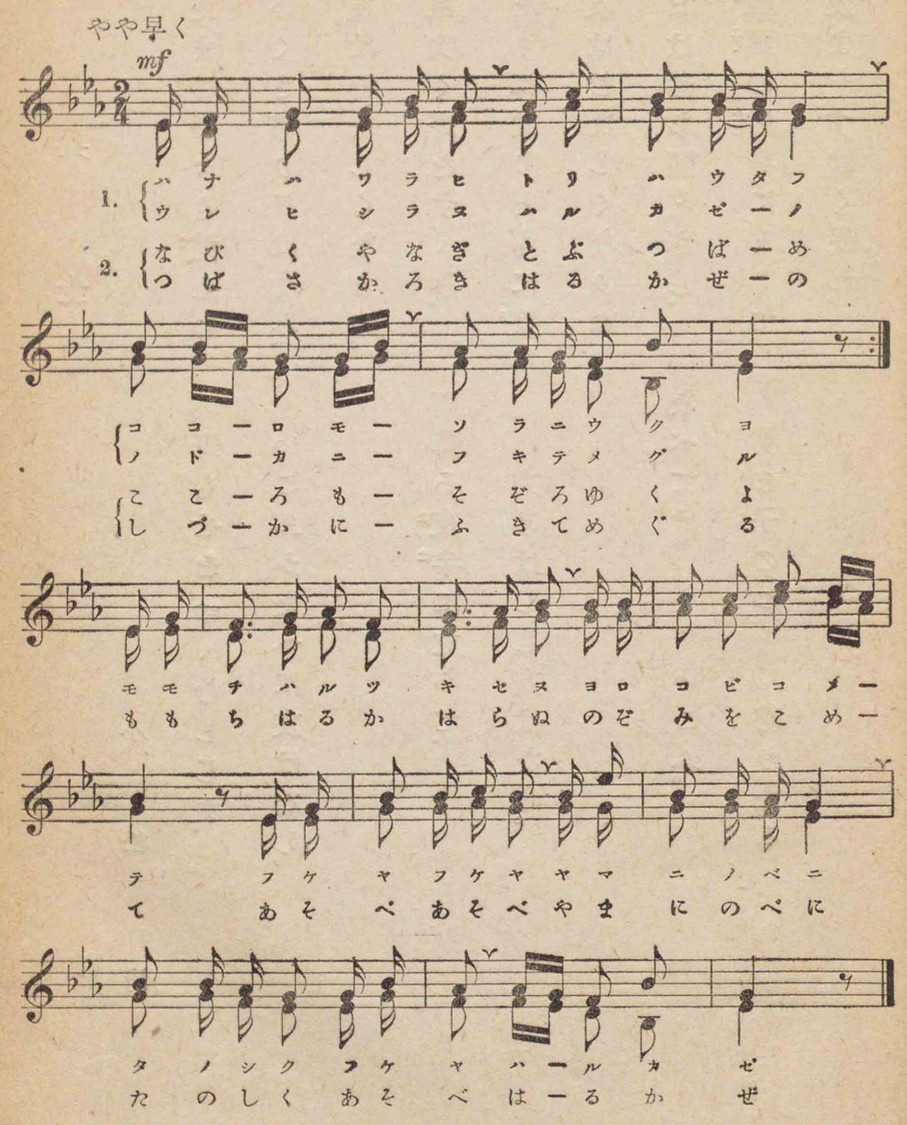
二

風吹く野をすゝみ、　雨降る夜半に立ちて、
ともに語りともに笑み、　力あはしし友はなし。
友はむなしくなりぬ。

三

日は落ち闇とざし、　なべてはいまぞいこふ。
祖國の盾身にとりて、　男の子のつとめ終りたる
友よやすけく眠れ。

春かぜ

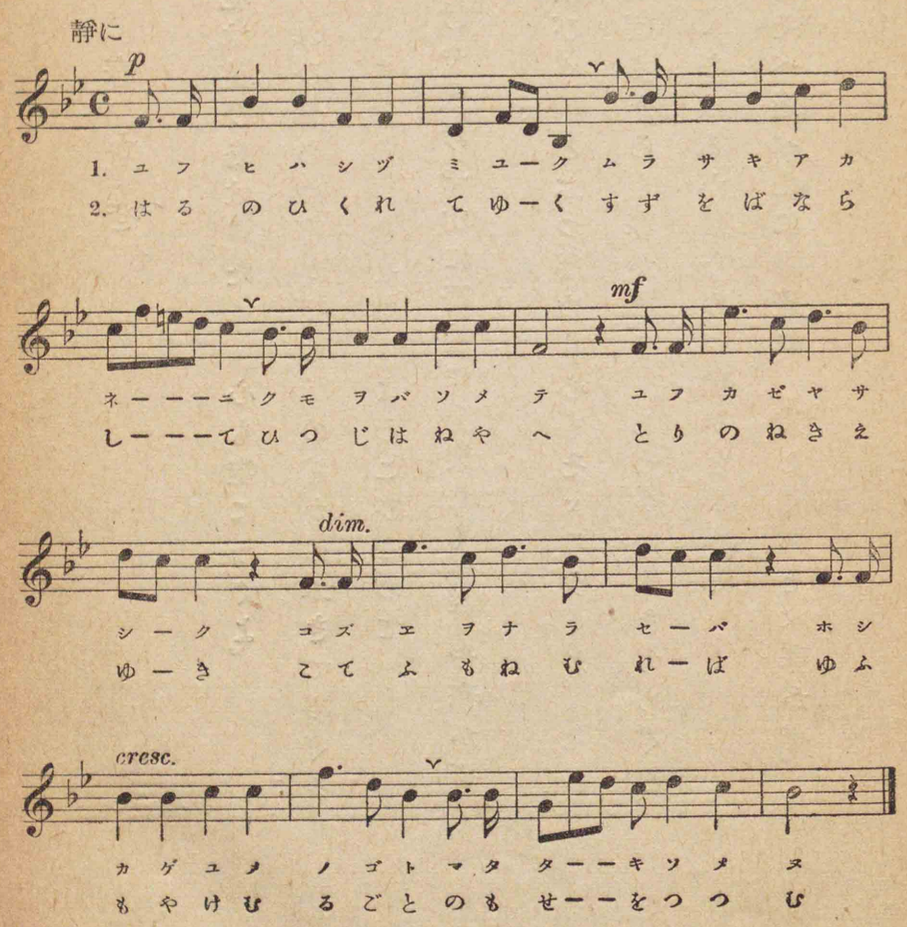


春かぜ

一　花は笑ひ鳥はうたふ、心も空にうくよ。
うれひ知らぬ春かぜの、のどかにふきてめぐる。
もゝちはるつきせぬ、よろこびこめて、
吹けや吹けや山に野邊に、樂しく吹けや春かぜ。

二　なびく柳とぶつばめ、心もそゞろゆくよ。
つばさかろき春かぜの、しづかに吹きてめぐる。
もゝちはるかはらぬ、望みをこめて、
あそべ遊べ山に野邊に、樂しくあそべ春かぜ。

春の夕



春の夕

麻上俊延

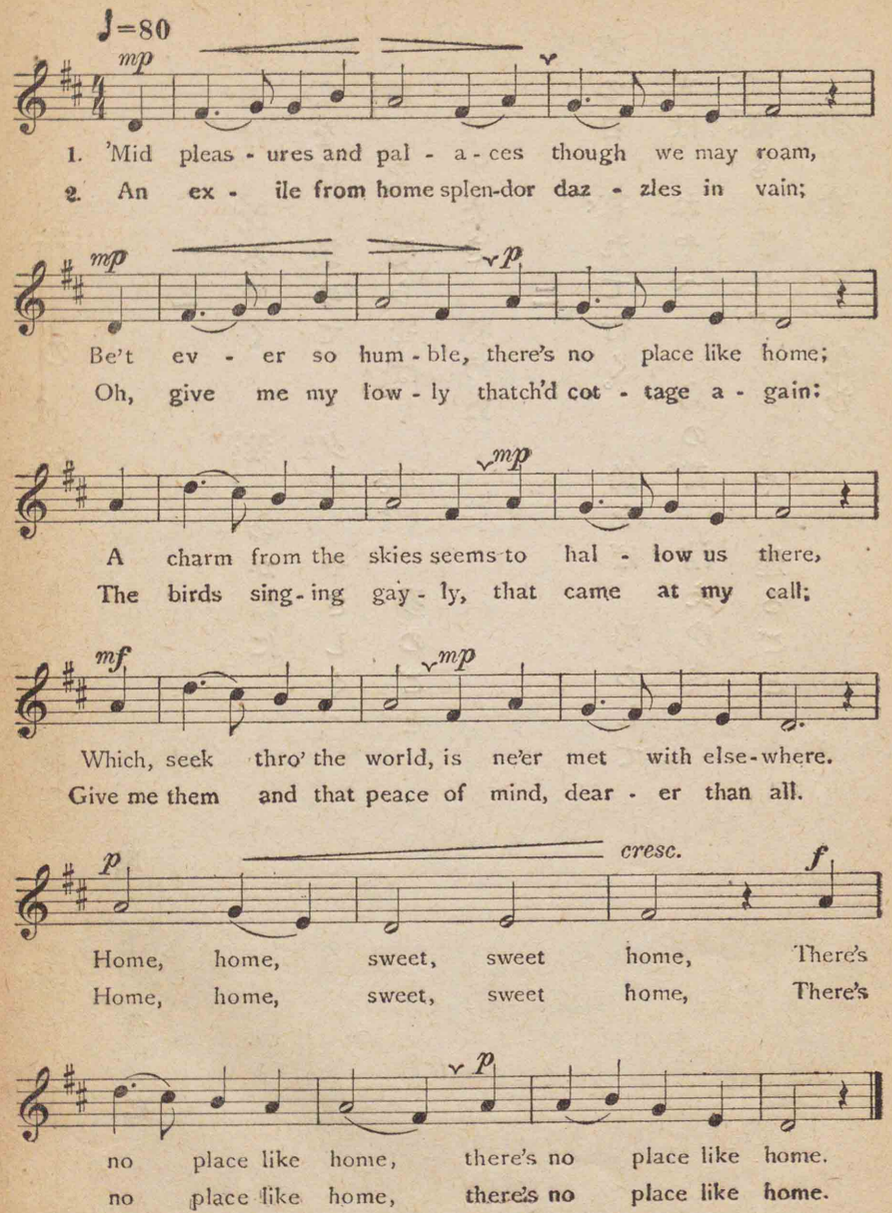
一

夕日は　沈みゆく、　紫　あかねに
雲をば　染めて。　夕風　やさしく
梢　を　鳴らせば、　星影　夢のごと
またたき　初めぬ。

二

春の日　暮れて行く。　鈴をば　鳴らして
羊は　ねやへ。　鳥の音　消えゆき、
胡蝶も　眠れば、　夕もや　煙るごと
野もせ　を　包む。

Home, Sweet Home.



Home, Sweet Home.

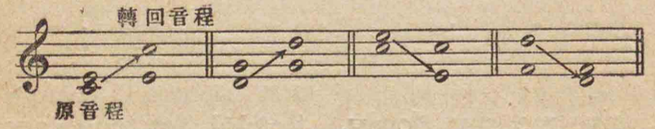
1. 'Mid pleasures and palaces though we may roam,
Be't ever so humble, there's no place like home;
A charm from the skies seems to hallow us there,
Which, seek thro' the world, is ne'er met with elsewhere. Home, home, sweet, sweet home, There's
no place like home, there's no place like home.

2. An exile from home splendor dazzles in vain;
Oh, give me my lowly, thatch'd cottage again;
The birds singing gayly, that came at my call;
Give me them and that peace of mind, dearer than all.
Home, home, sweet, sweet home, There's
no place like home, there's no place like home.

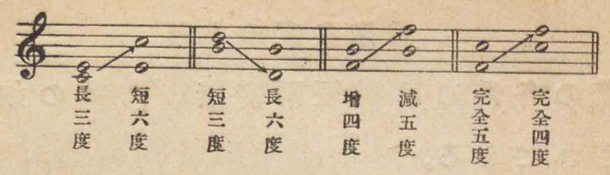
樂　典

音程の轉回

音程を構成する二音の中,下位の音を一八音上に移し,又は上位の音を一八音下に移すことを音程の轉回と稱し,原位置の音程を原音程,轉回された音程を轉回音程と稱へる。轉回された音程の度數は九の數より原音程の度數を減じた數に相當する。卽ち三度は六度(9−3=6)四度は五度(9−4=5)となる如くである。



音程を轉回すると其性質を變ずるものと,變じないものとがある。卽ち轉回により,長音程は短音程となり,短音程は長音程となり,增音程は減音程,減音程は增音程となる。唯完全音程のみは轉回しても完全音程として其性質を變じない。



協和音程と不協和音程

二つの音を同時に奏する時,聽者に調和滿足の感を與ふるものを協和音程といひ,然らざるものを不協和音程と稱へる。協和音程は更に完全協和音程,不完全協和音程の二種に分けることが出來る。前者は極めてよく協和し,後者は協和の度が稍々前者に劣るものである。

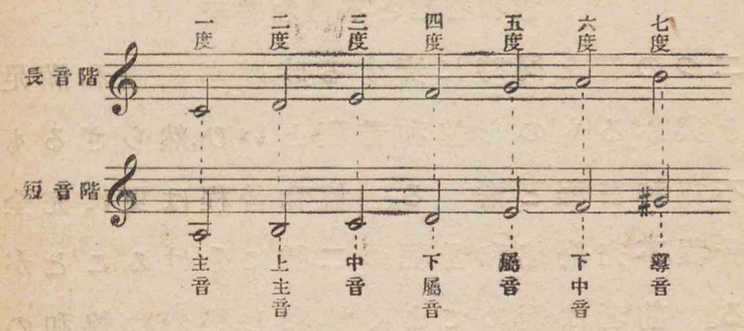
- 協和音程
  - 完全協和音程
    - 完全一度　完全四度
    - 完全五度　完全八度
  - 不完全協和音程
    - 長三度　短三度
    - 長六度　短六度

以上の協和音程を除いた長,短二度,七度,及びすべての增,減音程は不協和音程である。

- 不協和音程
  - 長二度　短二度
  - 長七度　短七度
  - すべての增,減音程

音階各度の名稱

音階の各音には長短兩音階とも次の如き名稱が附されてをる。



和　聲　學

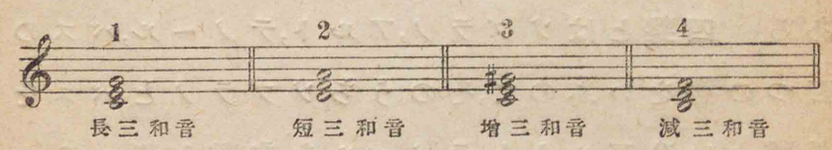
二個以上の音程音名を異にせる樂音が同時的に結合せられた時には,これを和音(クワオン)と稱へる。和聲學は是等の和音の取扱方法を研究する學問である。

三　和　音

或一音を基礎として,それに三度と五度の音を重ねた音の一群を三和音と稱へる。三和音は其基礎の音を根音,三度上の音を三音,五度上の音を五音と稱へる。

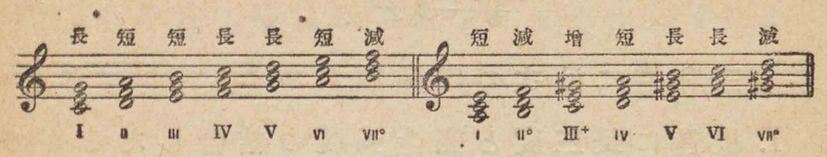
三和音には次の四種類がある。

1. 根音に長三度と完全五度の結合したるもの,これを長三和音といふ。
2. 根音に短三度と完全五度の結合したるもの,これを短三和音といふ。
3. 根音に長三度と增五度の結合したるもの,これを增三和音といふ。
4. 根音に短三度と減五度の結合したるもの,これを減三和音といふ。



以上のうち長三和音,短三和音の兩者を協和和音といひ,增三和音,減三和音の兩者を不協和和音と稱へる。いま長短兩音階の各音の上に三和音を構成すると,次の如き各種の三和音を得ることが出來る。

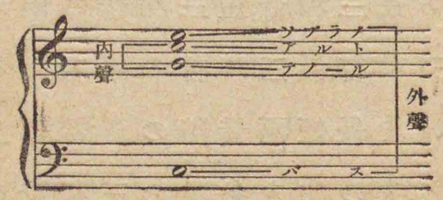
長音階各度上の三和音　　短音階各度上の三和音



上掲のローマ數字は音階の各度と其三和音の種類とをあらはすもので,大字は長三和音を,小字は短三和音を,大字の右肩に＋の附されたるものは増三和音を,小字の右肩に○の附されたるものは減三和音をあらはす。

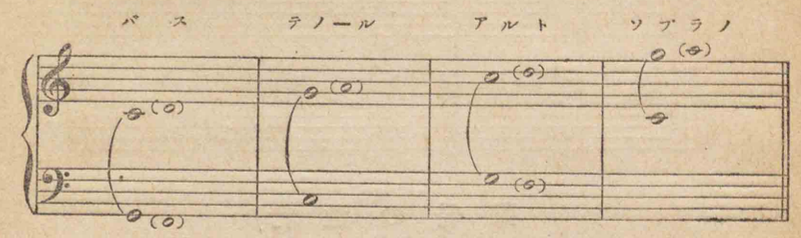
四　聲　音

和聲の練習は普通四聲を以て行はれるものである。四聲とはソプラノ,アルト,テノール,バスの四つの聲をいふので,そのうちソプラノとバスを外聲といひ,アルトとテノールを内聲と稱へる。

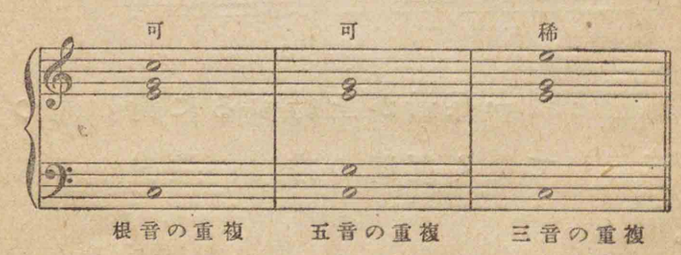


四聲のうちソプラノとアルトは女聲でテノー

ルとバスとは男聲である。これ等の聲には各一定の音域があつて,諸聲の進行は各その音域内に於て行はれる。

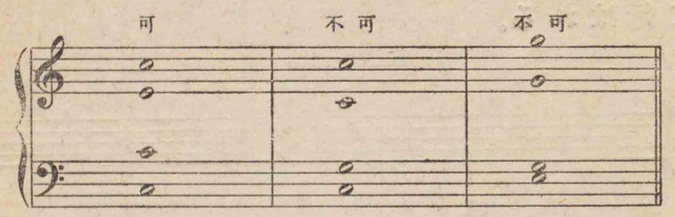


三和音によつて四聲の和聲を作るには三和音中の或音を重複しなければならない。此場合には根音の重複が最もよく,第五音の重複はこれに次ぎ,第三音の重複は稀に行ふのである。但し導音の重複は特別の場合の外これを避ける。



又聲音の進行上三和音中の或音を省略する必要の起る場合がある。其時には第五音を省略し,

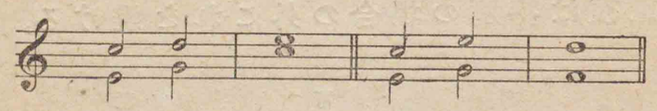
根音と第三音とはこれを省略することが出來ない。



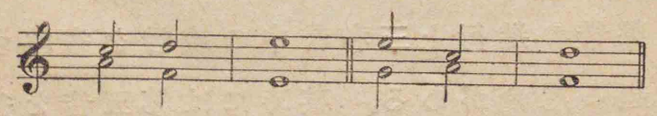
聲音の進行

聲音の進行には並進行,反進行,斜進行の三種がある。

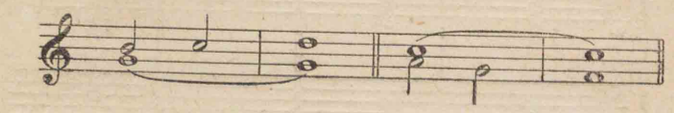
並進行とは二聲音が同時に上又は下に同一の方向を以て進行するものをいふ。



反進行とは一聲音が上行するに對し他の一聲音が下行して全く反對の方向に進行するものをいふ。



斜進行とは一聲音が同度に靜止し,他の一聲音が上又は下に進行するものをいふ。

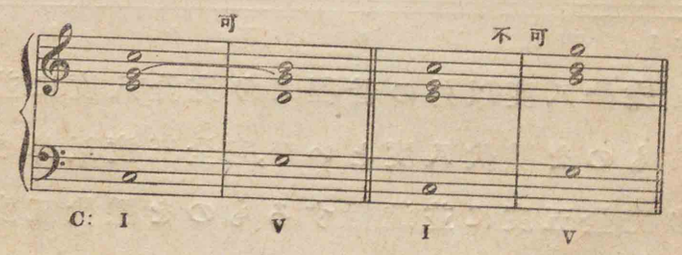


四聲音の進行に於ては,以上三種の進行が混用されるものである。

和音の連結

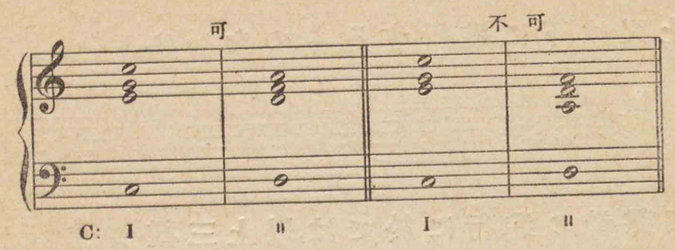
和音の連結は,各聲音をして最も圓滑に且自然に進行せしめるのが本旨である。次に和音の連結に關する諸法則中最も重なものを掲げる。

1. 連結せんとする兩和音に,共通せる音のある場合にはなるべく同一聲音部に保續させ殘餘の諸聲音はその和音に近接する位置に進行させる。

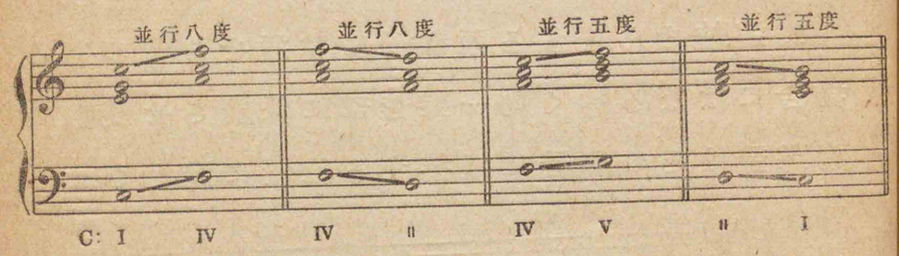


2. 連結せんとする兩和音に共通する音の無い場合には低音に對して他の諸聲音は反進行をな

し,前和音に最も近き位置に各音を進行させる。

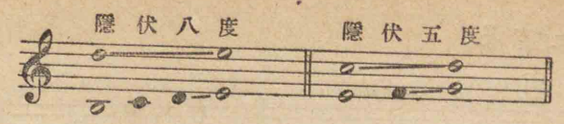


3. 二つの聲音が互に完全八度の間隔を以つて並進行をするときは之を並行八度といひ,二聲音が互に完全五度の間隔を以て並進行をする時には之を並行五度といひ,兩者ともに其の進行を禁止される。

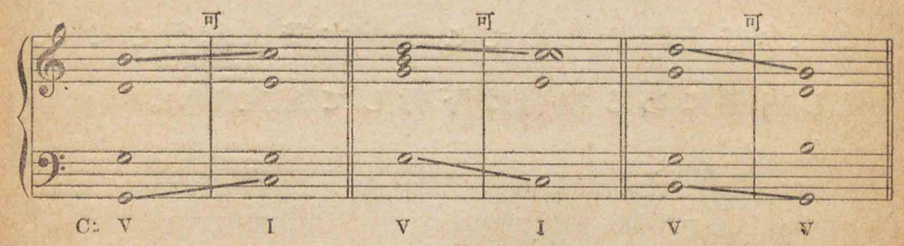


4. 完全八度以外の音程より完全八度に並進行するものを隱伏八度といひ,完全五度以外の音程より完全五度に並進行するものを隱伏五度といふ。

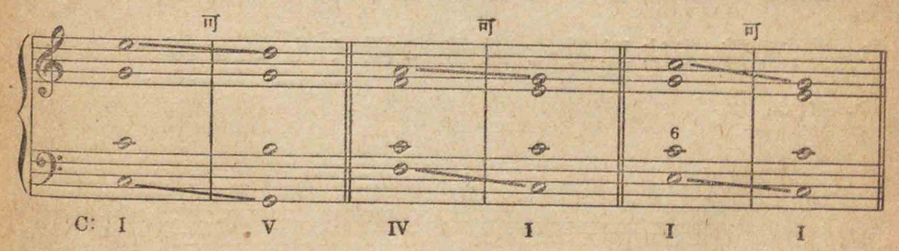
隱伏進行は概して許されるものであるが,隱伏八



度が外聲間に生ずる場合は一般に禁止される。但し上聲部が半音の上行をとる時,又は全音の下行進行をする時,並びに同度和音内に生ずる場合は許される。

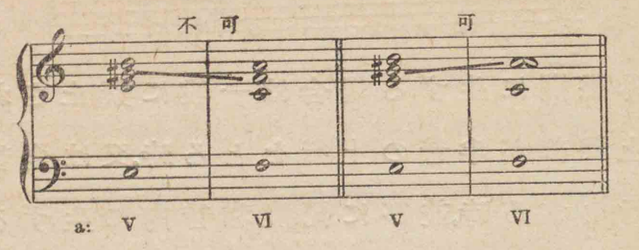


隱伏五度も外聲間に生ずる時は禁止されるものであるが,主和音(一度)より屬和音(五度)に,下屬和音(四度)より主和音に進む時,並びに同度和音内に生ずる時は許される。

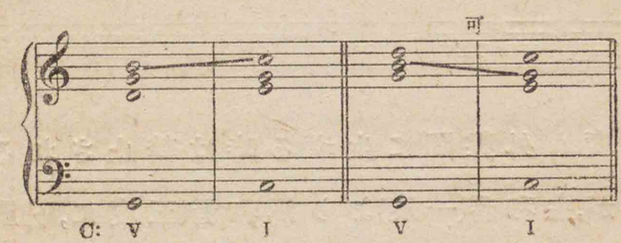


5. 二度以上にわたる增音程の進行は概してこ

れを禁止する。

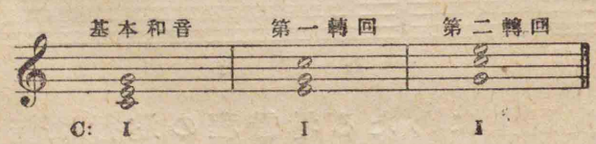


6. 導音は,次續する和音に主音を含んでゐる時には,半音上行せしめてこれを主音に進行させる。但し內聲にある場合は下行しても宜しい。



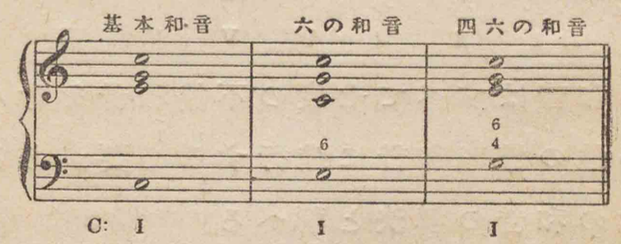
三和音の轉回

三和音は根音を低音に置くものを基本和音といひ,三音或は五音を低音に置くものを轉回和音と稱へる。



根音を轉回して第三音を低音とする和音を六の和音といひ,$^{6}_{3}$又は6の數字を低音上に記して之を指示する。

根音と三音とを轉回して,五音を低音とする和音を四六の和音といひ,$^{6}_{4}$の數字を低音上に記して之を指示する。



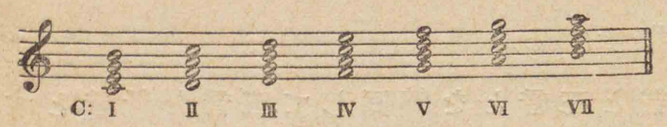
六の和音を以て四聲音を作る場合には,基本和音と同じく根音の重複を以て最良とし,五音はこれに次ぎ,三音も場合によつて之を重ねることが出來る。又四六の和音は五音の重複が最も宜しい。

七の和音

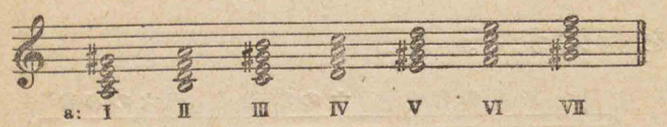
三和音の第五音の上に更に三度の音を加へたものを四和音又は七の和音と稱へる。七の和音は三和音と同じく長短兩音階の各度の上に構成

することが出來る。

長音階各度上の七の和音



短音階各度上の七の和音

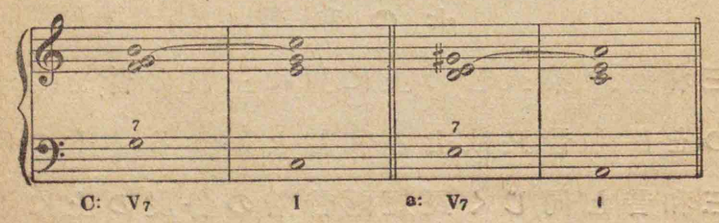


七の和音はすべて七度の不協和音を含んでゐるから他の協和和音に進行する必要がある。これを七の和音の解決と稱へる。

七の和音は低音上に $\begin{smallmatrix}7\\5\\3\end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix}7\\5\end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix}7\\3\end{smallmatrix}$ 又は7の數字を記してこれを指示する。

七の和音は屢第五音を省略して根音を重複することがある。

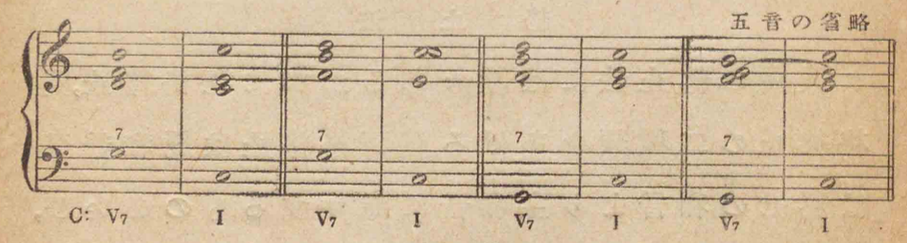
第五音の省略



屬七の和音

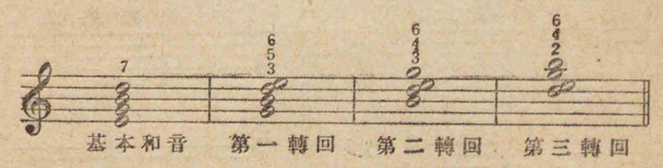
七の和音中最も重要で且つ屢使用されるものは長短兩音階の屬音(第五度)上に構成される七の和音で,之を屬七の和音と稱へる。

屬七の和音は普通主和音と連結する。その場合に於ける各聲音の進行は次の如くである。



屬七の和音の轉回

屬七の和音もまた轉回の位置に於て用ひられ。その解決は基本和音と同一である。



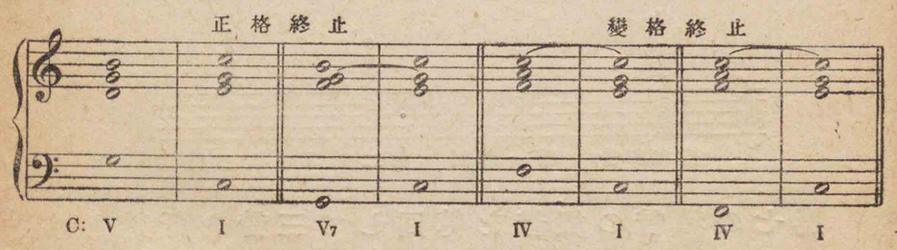
屬七の和音の根音を轉回して三音を低音とするものを五六の和音といひ,$\begin{smallmatrix}6\\5\\3\end{smallmatrix}$ 又は $\begin{smallmatrix}6\\5\end{smallmatrix}$ の數字を低音に記してこれを指示する。

根音及び三音を轉回して五音を低音とするものを三四の和音といひ,低音上に $\begin{smallmatrix}6\\4\\3\end{smallmatrix}$ 又は $\begin{smallmatrix}4\\3\end{smallmatrix}$ の數字を記してこれを指示する。

根音,三音及び五音を轉回して七音を低音とするものを二の和音といひ $\begin{smallmatrix}6\\4\\2\end{smallmatrix}$ 或は $\begin{smallmatrix}4\\2\end{smallmatrix}$ 又は 2 の數字を低音上に記してこれを指示する。

終　止　法

樂曲の終止法には種々あるが次に正格終止,變格終止の二種類をあげる。正格終止は屬和音又は屬七の和音より主和音に進行するものをいひ,變格終止は下屬和音より主和音に進行するものをいふ。變格終止はおもに讃美歌等に用ひられる。



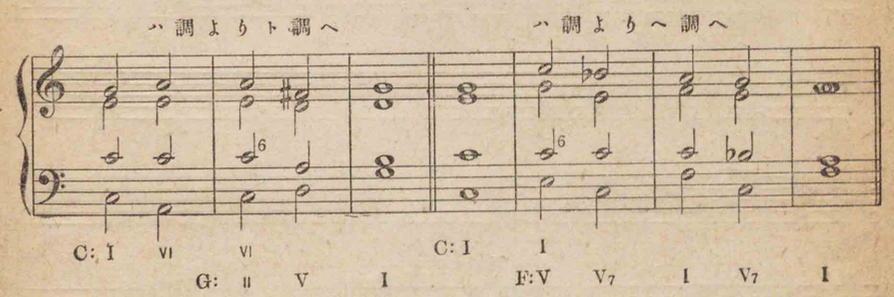
轉　調

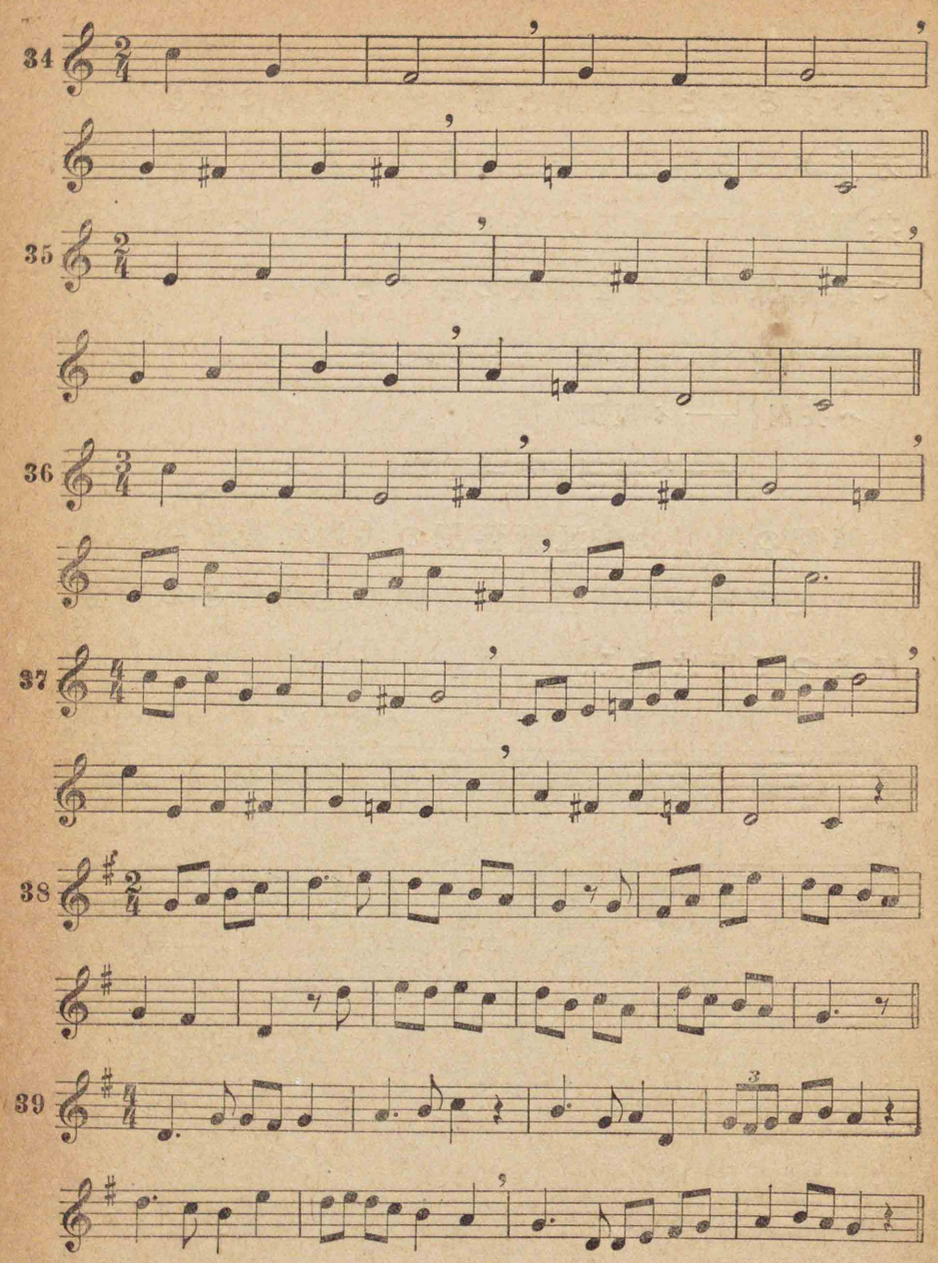
樂曲に變化を與へんがために或調から他の調

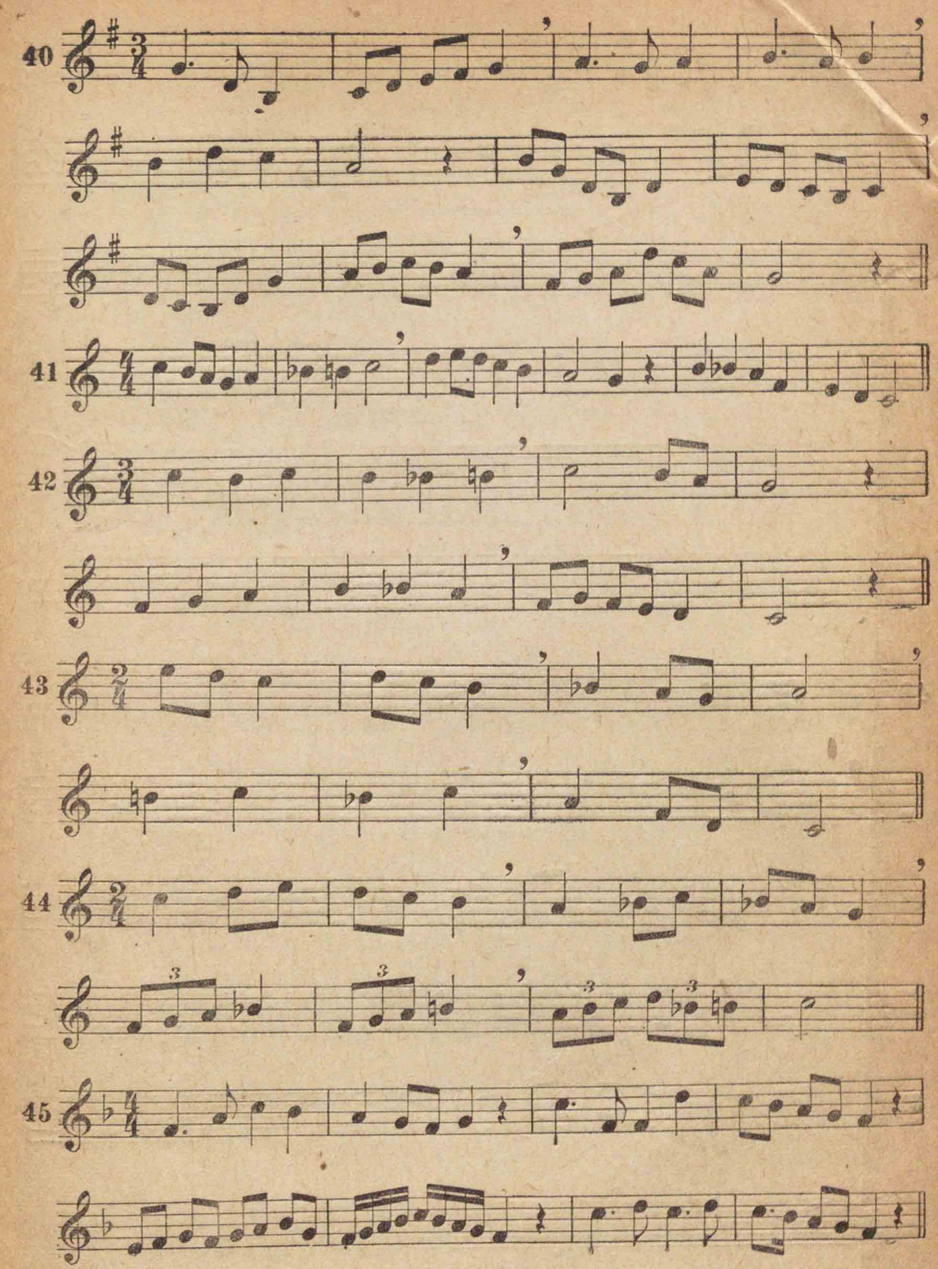
に轉ずることを轉調と稱へる。轉調には種々の方法があるが,最も普通に行はれるのは或調より其關係調に轉ずる方法である。今ハ長調によつて其關係調を示せば次の如くである。

ハ長調 ┬ ── ト長調 ── ホ短調
　　 ├ ── イ短調
　　 └ ── ヘ長調 ── ニ短調

轉調の順序は普通新舊調の共通和音,新調の屬和音又は屬七の和音,及び新調の主和音との結合によつて行はれる。




34
35
36
37
38
39


40
41
42
43
44
45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

昭和十七年四月十日印刷
昭和十七年四月十四日發行

實業音樂教本 參	著作權所有	定價 金三拾七錢

著者　小松耕輔

東京市麹町區飯田町二丁目二十番地
發行者　中等學校教科書株式會社
代表者　山本慶治

東京市神田區小川町二丁目十二番地
印刷者　株式會社秀英社
（東東4123）代表者　西川喜右衞門

發行所
東京市麹町區飯田町二丁目二十番地
中等學校教科書株式會社
日本出版文化協會會員番號117522

（略名）目黒小松實音樂

配給元　日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二丁目九

1979.11.8

広島大学図書
0130449434